

令和 6年度 三 好 市 立 学 校 評 価 報 告 書

学校名(三好市立馬路小学校)
校長名(新藤 克己)

作成日 令和7年3月1日

1 総括評価

評 価 分 野	自己評価 (平均値)	自 己 評 価 結 果 の 概 要	学 校 関 係 者 評 価 の 概 要	次 年 度 の 改 善 策
①学校経営及び学校運営に関する評価	3	○小規模校の特性を十分生かしながら、全教職員との協働体制を構築し、家庭や地域に信頼される学校づくりができた。 ○校内研修やOJTにより、倫理観の確立や資質・能力の向上を図ることができた。	○教職員が学校経営方針を意識し、一人一人の子どもの実態に即した教育活動を行っているのが分かる。	○学校教育目標や学校経営方針を常に意識できるように、職員会や校内研修において継続的に説明や共通理解を図っていく。
②教育目標及び教育計画に関する評価	3	○ナンバーワン・ステップアップスクールの方策と目標値を意識しながら、全教職員で取り組めた。 ○知・徳・体を育成する教育活動が、バランスよく実施できた。	○コロナ禍が緩和され、いつも通りの学校行事や教育活動がほぼ計画通り実施できていた。	○各種教育活動や行事のPDCAサイクルを大切にし、次年度への改善を図る。
③主要な教育活動に関する評価	3.2	○電子黒板やタブレットを有効に活用して、分かりやすい授業改善に努めることができた。 ○子どもの主体的な活動を重視し、全教職員の共通理解のもと取り組むことができた。 ○道徳・人権教育を充実させ、いじめや差別のない仲間づくりに取り組めた。	○児童数が少人数であるデメリットもあると思うが、児童みんなで協力しながら一生懸命取り組み、日々着実に成長していると思う。 ○小規模校の特性を生かし、学校と地域が一体となって活動していると強く感じる。	○本年度の成果と課題を明確にし、次年度に十分生かしていく。 ○少人数学級や複式学級の授業や教育活動の進め方を研究し、より質の高い教育活動を推進する。
④保護者及び地域との連携等に関する評価	2.8	○HPや学年通信で、学校生活の様子をできる限り伝え、保護者や地域の方に学校教育への理解が得られるよう努めた。 ○コロナ禍の影響が残り、他校との交流学习が十分にできなかった。	○HPや学年通信、うまじっ子通信を通して、学校やこどもの様子がとてもよく分かった。 ○地域と連携した体験学習が、積極的にできていた。	○家庭や地域への情報発信について、よりよい内容や方法を検討しながら継続する。 ○学校運営協議会をさらに活用し、共に教育目標の達成を図る。 ○来年度は、他校と相談しながら、少しずつ交流学习を復活させていきたい。
⑤その他、上記以外に関する評価(安全管理・ICT機器利用)	3	○安全点検を定期的に実施し、施設・設備の安全管理に努めることができた。 ○ICT機器や電子黒板を有効に活用するために、日常的に研修ができた。	○参観授業で、ICT機器を積極的に活用している先生や子どもの姿が印象的だった。	○従来の教育とICT機器を効果的に組み合わせた教育活動を推進する。 ○危機管理を徹底し、子どもの命を守ることを最優先にした学校運営に取り組む。

(1)評価基準については、次の通りとする。

評価基準	4＝達成度が 90～100 %
	3＝達成度が 70～ 90 %
	2＝達成度が 50～ 70 %
	1＝達成度が 50% 未満

(2)総括評価表の「評価(平均値)」については、「2 分野別評価」の1～5の評価をそれぞれ平均(小数第1位)したものとする。
(3)総括評価の「評価分野」及び分野別評価の「評価項目」の「その他」については、各学校において必要事項を記入のうえ評価する。
(4)分野別評価の「自己評価結果の概要」欄については、特に評価が 4 及び 1 について記入する。
(5)総括評価及び分野別評価の「学校関係者評価の概要」欄は、学校関係者評価委員会において評価された結果をまとめたものを記入する。
(6)「次年度の改善策」の欄は学校評価委員会及び学校関係者評価委員会において協議された改善策をまとめたものを記入する。

